

場として受け継ぐ

「温せたい」

～四国に根付くお接待の新たな形～

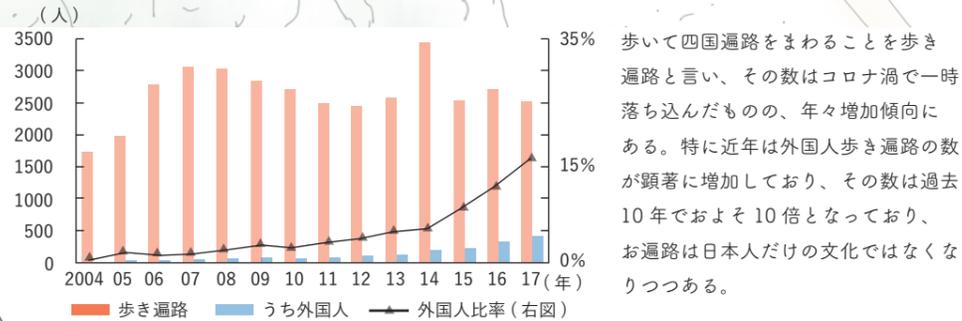


01 四国で根付くお接待文化

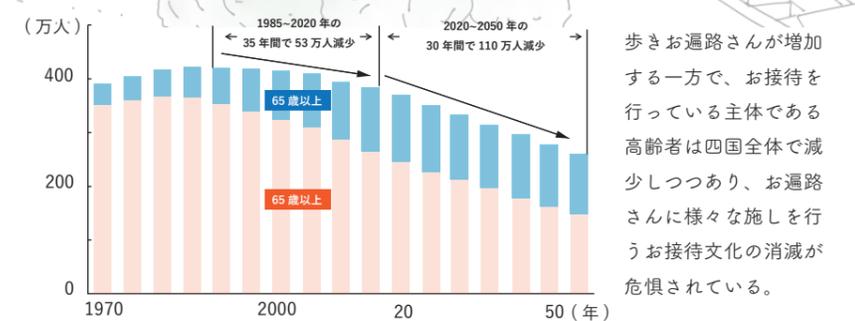
「お遍路さんお接待です～」四国の街中歩いているとあちらこちらでそんな掛け声とともに飲食物をお遍路さんに手渡す光景が多く見られる。これは四国 88 箇所霊場を巡るお遍路さんに食べ物や飲み物などを施す、四国で 200 年以上続く「お接待」という文化である。お接待では単に物品を渡すのではなくお接待を行う地域住民が私の分までお遍路を巡ってほしいという思いも渡されると言われている。



02 増加する外国人歩きお遍路

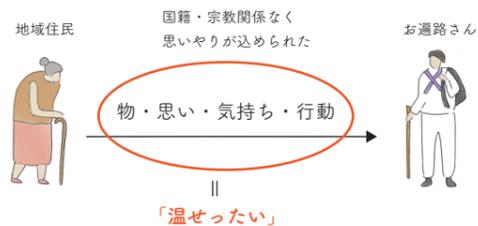


03 減少するお接待の主体である四国の高齢者



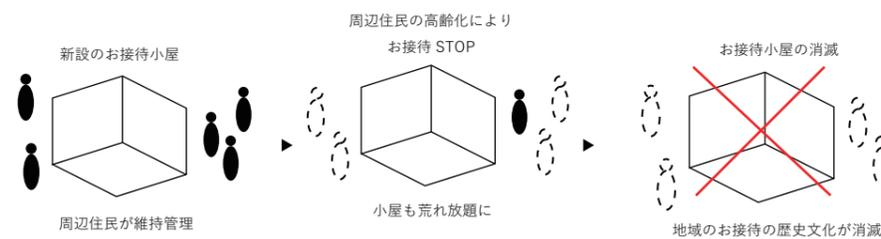
04 お遍路文化から抽出した「温せたい」という手法

今回は四国の人々の国籍や宗教関係なく、すべてのお遍路さんに対する思いやりが込められた行動や心を「温せたい」という手法として抽出する。



05 出現と消滅を繰り返す接待小屋

近年四国では地域のコミュニティセンターの役割もかねて歩きお遍路さんをもてなすための小さな接待小屋が各地に建てられるようになった。新設の接待小屋は確かに地域のコミュニティ機能を担い、お遍路さんとの交流の場となった小屋もある。しかしながら維持管理の主体はあくまで周辺住民であり、高齢化により接待小屋でお接待をする人や小屋の手入れをする人が少なくなり、荒れ放題となってしまう小屋が増加している。



06 今回の提案内容 / お接待という文化を空間として受け継ぐ文化を作る

今回は「温せたい」という四国の人々の分け隔てないお遍路さんへの真心を元に、すでに人々が普段から生活している住宅や店舗の一部を改築または増築を行い、そこに接待場の機能を挿入していく。そうすること住宅・店舗に設けられた接待場は建物とともに、親から子、子から孫へと引き継がれたり、一代目店主から二代目店主へと受け継がれたりする。お接待の心(ソフト)は思い出の詰まった空間(ハード)とともに何世代にも渡って町の中で受け継がれることを目指す。

